



矢川だより

特集

みんなが安心して過ごせる
滝乃川学園を目指して



No.136
2025.04.Spring



矢川 の ひと



社会福祉法人滝乃川学園 学園長
木村隆則（きむら・たかのり）さん

1983年に滝乃川学園に入職し、当初は児童部を担当。その後成人部や地域支援部を立ち上げるなどさまざまな事業に携わり、法人本部へ。2022年4月に滝乃川学園の学園長に就任、俯瞰する立場で学園を運営している。

利用者様と職員と 共につくる福祉のかたち

滝乃川学園に入職してからもう40年が経ちます。知り合いの弟さんが障害のある方で、その方との付き合いなどを通して福祉の仕事の存在を知り、興味を持ちました。

最初に配属されたのは児童部で、利用者様と一緒に過ごす、遊ぶ、という日々が中心でした。その後は地域事業やグループホームの立ち上げに関わり、グループホームの責任者をしていた時もあります。中軽度の障害のある方々の相談に乗る中で、それまで支援していた重度の方とは異なる支援のあり方にも目を向けるようになりました。

学園長になってからは、学園全体を俯瞰する立場となり、新たな視点で福祉を考えるようになりました。現在は、2026年に新宿区で開設予定の、新事業所の準備に取り組んでいます。主に重度知的障害者の方に向けた事業所です。どのような支援や運営が利用者様の安心につながるか、職員みなで話し合いながら進めています。

今年は国内外から20名以上の新入職員が加わりました。多様な利用者様と職員がいるからこそ、多様な視点を大切にしながら、これからの滝乃川学園をみんなで築いていきたいと思っています。

障害のある人も、ない人も
ともに地域で生きる社会を目指して

創始者の石井亮一・筆子夫妻は
学園の門を地域に開きました

その想いは、今も大切に受け継がれ
緑豊かな環境のなかで
独自の文化が息づいています

木漏れ日に包まれながら
ゆるやかに時間が流れ

地域ににじむ滝乃川学園
今年もまた

新しい人の輪が広がりはじめました



矢川おんだしとあおいとり保育園

みんなが安心して過ごせる

滝乃川学園を

目指して

特集

国立市の南側に広がる緑豊かな自然の中で、私たちは障害のある皆さんがそれぞれの持つ力を精一杯伸ばし、地域社会の一員として輝けるよう、日々サポートをしています。私たちが大切にしていることの一つに、「安心・安全」があります。それを支えているのが、危機管理委員会です。

委員会ができた経緯や、さまざまな取り組みについて伺いました。



お話を聞いた職員

児童部 部長
林 克昌

委員会発足のきっかけ

私たちの危機管理への意識が大きく変わったのは、2011年3月発生の東日本大震災がきっかけでした。あの時、東京でも震度5強の地震があり、計画停電やガソリン不足など利用者様、私たちの生活に影響を与えるさまざまな出来事に直面することになりました。すぐに滝乃川学園でも被害状況の共有や対応についての協議をする場として危機管理委員会が発足しました。

委員会は当初、災害対策を中心に活動を始めましたが、時が経つにつれて、学園に関わるあらゆるリスクに対応する、より広範囲な役割を担うようになっていきました。しかし、活動の幅が広がる一方、力を入れるべきテーマが曖昧になっていったため、現在は改めて「防災」という最も重要なテーマに焦点を当てて、



危機管理委員会の様子

活動を活性化しようと動いています。

「防災・減災に向けて」

今、私たちが一番大切にしているのは、災害を他人事ではなく「自分事」として捉え、いざという時に主体的に行動できる仲間を増やすことです。また、自分の身を守る「自助」の意識を高め、そして困っている人を助ける「共助」の精神を育むことを重視しています。

毎月必ず行う避難訓練では、ただ形だけの訓練にならないよう、避難訓練の度に、前回うまくいかなかったことや、改善できる点などを委員会で話し合っています。訓練のための訓練では意味がありません。参加した職員一人一

人が、この訓練を通して何かを学び、それを自分の部署に持ち帰って、みんなで共有することを大切にしています。

滝乃川学園には子どもから高齢の方まで多くの方が色々な事業をご利用されています。災害時に利用者様の安全を確保するには、職員間の協力、連携は不可欠になってきます。避難訓練は訓練ではありませんが、同じ目的のもと法人全体で取り組む数少ないイベントとして他部署の利用者様や職員のことを知る機会にもなっています。これはとても大事なことで、避難の実践力を身に付けるだけでなく、人と人がつながることで自然と助け合いの気持ちは育まれ、職員間の協力、連携、いわゆる共助が避難訓練を通

して高まっています。実際に訓練時に職員が他部署の避難誘導を自主的に手伝いにいたりする場面が当たり前の光景となってきています。

日々の安全を守るために

私たち滝乃川学園には、学園ならではの難しさもあります。それは、学園の敷地内だけでなく、地域のグループホームで生活している方や、日中の散歩などの活動で地域に出かけている方の安全を、どのように確保し、安否を確認するか、ということです。大きな地震が起きた時、電話は繋がりにくくなる可能性があるため、適切な連絡を取れるツールの導入など進めていますが、まだまだ改善の余地があると感じています。

より効果的な危機管理体制を築くために、昨年は委員会メンバーで危機管理産業展に参加し、防災に関する知識を

深める機会を設けました。実際に見て聞いて感じることで防災に対する意識、関心がより高まり、その後の委員会活動にも大いに役立ちました。

危機管理の取り組み

私たち危機管理委員会では、年間を通してさまざまな取り組みを行っています。例えば毎年、「炊き出し訓練」を危機管理委員会で企画し実施しています。炊き出し訓練では災害用の備蓄食料を使用し、利用者様、職員に提供しています。実際にカセットコンロや大鍋を使ってお湯を沸かしてアルファ米を使用した食事を作り、いざというときにどうするのか、どのようなものを食べるのかを実践的な訓練を通して学んでいただいています。その他にも昨年度の危機管理委員会では、3つのワーキンググループに分かれてそれぞれの目的、テーマ

に沿った活動も行いました。1つは滝乃川学園全体の防災意識向上を目的とした啓発活動の一環として「防災チラシの作成」グループです。季節に応じた災害を深掘りして構成を考え、チラシを作成し配布しました。次に災害発生した際に滝乃川学園の事業を継続し、利用者様の生活を守るかを考える「BCP研修の企画」グループです。このグループでは国立市の防災安全課に協力を依頼し、災害図上訓練を実施しました。そして「炊き出し訓練企画」グループの3つです。どのグループ活動も目的を共にする職員間で活発な意見交換が交わされ、携わった職員の学びになりました。

また、滝乃川学園には災害時用の食料や備品を保管する備蓄倉庫があります。倉庫内のものがいつでも使用できるように委員会で整理をしてい



滝乃川学園の備蓄倉庫

ます。最近委員会で取り組み始めたこととして、「SOSカード」を作り始めました。「SOSカード」とは災害時には私たち職員も被災者となり、十分な体制がとれなくなる可能性があります。そのため、お手伝いいただく方々に初めての利用者様ともスムーズにコミュニケーションがとれるようにすることを目的としたものです。

危機管理委員会では、滝乃川学園全体の防災力が高まるように災害発生時の状況を想定し、色々な角度から防災や



炊き出し訓練の様子

災害時対応について考え取り組んでいます。課題もまだまだたくさんあります。その中の1つに福祉避難所の運営が挙げられます。滝乃川学園は、福祉避難所として災害時に地域の障害のある方の避難場所としての役割を担っています。しかしながら、まだ福祉避難所としての準備が十分にできておらず、早急に国立市と連携して整備を進めなければいけません。能登地震でも開設された福祉避難所は半数以下でした。

私たち危機管理委員会では、滝乃川学園を利用するすべての方、そして地域で暮らされている障害のある方々が、災害が発生しても滝乃川学園にいれば安心と思っただけのように、今後も日頃からの備えを追求していきます。

滝乃川学園ではたらく

2025年度新入職員紹介



園内の桜が満開になった4月初めに、今年も講堂で新人研修が行われました。少し緊張しながらも皆さん真剣に意気込みを語ってくれました！

インタビュー
by
国立人

今年は何年よりも多い、23名の新入職員が滝乃川学園の仲間に加わりました。新卒の方はもちろん、これまでさまざまな業界で働いていた方もいて、多様な経歴を持つメンバーがそろっています。今回は、新入職員の皆さんが滝乃川学園で働くにあたって楽しみにしていることをご紹介いたします！

「昨年10月に実習をさせていただきました。自身も利用者様と関わりながら、スタッフと利用者様の関わりを間近で見ると、福祉の仕事に興味を持つようになりました。もともとは別の道を考えていたのですが、その実習を通して、福祉の道に進もうと決意しました。4月から新しい学びがたくさんできることを、とても楽しみにしています」
「前職ではパソコンに向かう

仕事をしており、業務の中で人と関わる機会がほとんどありませんでした。今回は思い切ってキャリアアジェンジをして、生身の人“と直接関わる仕事を選びました。利用者様や職員の方々とのこれからの関わりを、とても楽しみにしています」

また、今年も滝乃川学園として初めて外国人雇用を行いました。4名の新人が新たに加わりました。国を越えて福祉の現場で働く新入職員の皆さんにもお話を伺いました。



「私の趣味は、自然豊かな場所への旅行です。滝乃川学園は自然に恵まれた環境にあると知り、ここで働こうと決めました。働く人の心も潤うような環境を、楽しみながら過ごしたいと思っています」

新人研修では、これから滝乃川学園で働く皆さんの思いや決意を聞くことができました。皆さんのこれからの活躍がとても楽しみです。

私たちと一緒に働きませんか！

支援員 募集中

詳しくは滝乃川学園のホームページの「採用情報」をご覧ください。見学等、随時受け付けています。

問い合わせ 法人本部運営管理部人事科
TEL | 042-573-3950 (9時～17時)





2026年

新宿区中落合に

滝乃川学園の新しい施設が

誕生します！

このたび滝乃川学園は新宿区で新規事業所「滝乃川学園ともいろ」を開設します。開所日は未定ですが、工事は着々と進んでおります。場所は西武新宿線中井駅より徒歩10分程の中落合1丁目。新目白通り沿いにあります。事業内容は、グループホーム（3ユニット）・短期入所（3床のうち1床は新宿区緊急利用専用）・生活介護・相談支援の予定です。

事業所名の「ともいろ」は、利用者様と共に彩る施設でありたいという考えから、職員からの提案も参考に決めました。またグループホームや短期入所・相談支援も色の名前で統一しました。グループホームのユニット名は「あかねいろ」「あおいいろ」「もえぎいろ」で光の三原色をイメージ。生活介護は「にじいろ」、短期入所は「あさぎいろ」、相談支援は「そらいろ」になりました。生活介護・短期入所・相談支援は各国立事業のイメージカラーとリンクした色を選びました。

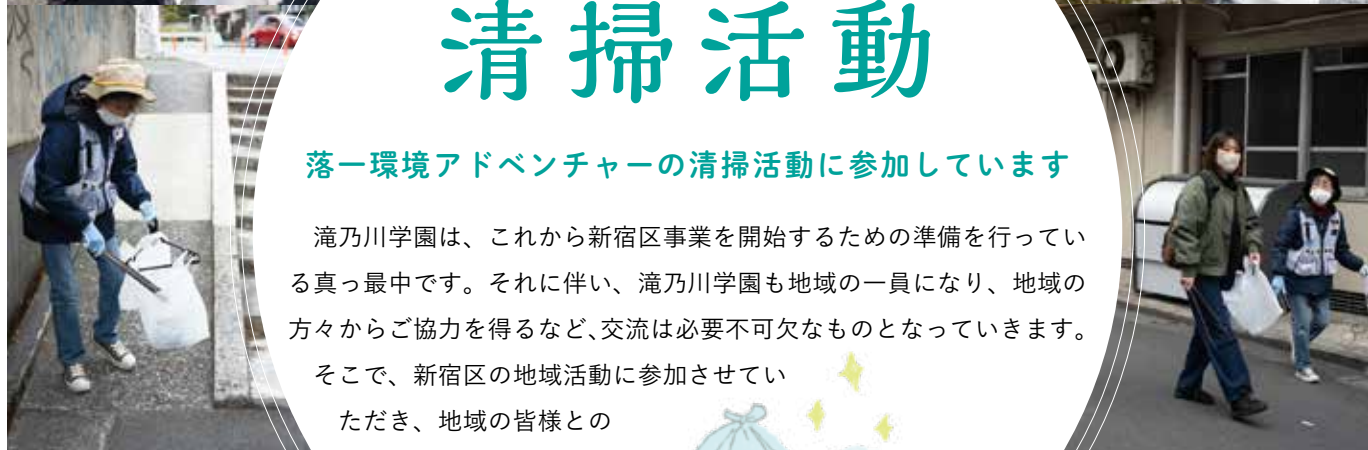
また「ものの市」などでもご縁のある角川クラブ様と共に地域交流棟の事業運営を進めることになりました。新規事業も利用者様が自分らしく生活できるように、地域の皆さんと共に歩んでまいりたいと考えております。



新宿・中落合 清掃活動

落一環境アドベンチャーの清掃活動に参加しています

滝乃川学園は、これから新宿区事業を開始するための準備を行っている真っ最中です。それに伴い、滝乃川学園も地域の一員になり、地域の方々からご協力を得るなど、交流は必要不可欠なものとなっていきます。そこで、新宿区の地域活動に参加させていただき、地域の皆様との交流を図っています。



私たちは滝乃川学園が参加しているのは、新宿区中落合を拠点としている『落一環境アドベンチャー』という団体の活動です。落一環境アドベンチャーは、代表の栗原さんをはじめとする地域のボランティアの皆さんが「自分たちの街は自分たちで綺麗に」という理念のもと、2004年から地域で美化活動を行っています。始めたきっかけは、せっかくなってきた素敵な遊歩道がゴミと放置自転車で台無しになっていたことです。

美化美化デー

毎月15日は「美化美化デー」と称し、落合第一地区の新目白通りの遊歩道を中心に、ごみ拾いをしています。月に1回というゆるさと毎月15日と日にちが決まっているので覚えやすく、参加が自由ということが15年以上続いている理由です。昨年12月には、落合地区の小学校と合同でごみ拾いを行ったりもしました。街中を清掃していると、「お疲れ様!」「ありがとうございます!」と地域住民の方が嬉しい言葉をかけてくださることもあります。

滝乃川学園と新宿区

落一環境アドベンチャーでは、清掃活動だけでなく、路上喫煙禁止開発活動(ポスターを貼ったり、歩きたばこ禁止の啓発活動など)や放置自転車追放運動(放置自転車台数調査や警告シール付け、ポスター掲示、チラシなどのPR活動など)への協力も行っています。さまざまな活動を行っている落一環境アドベンチャーの活動をはじめ、今後も滝乃川学園が新宿区の地域の一員として参加させていただき、地域へ貢献していけたらと思います。



- ① 1回のごみ拾いで1万歩は歩く
 - ② 街が綺麗になっていく喜びを感じられる
 - ③ ごみを話題に、お話をしながら仲間作りができる
- という魅力もあります!



学園のブーはん

滝乃川学園で食事提供を担当する管理栄養士の皆さんに、幅広い年齢層の利用者様がいらっしゃる学園ならではの食事の特徴や工夫などについて話を伺いました。

滝乃川学園の

お食事って？

滝乃川学園では、多くの利用者様が生活しており、小学生から高齢の方まで、幅広い年齢層の方々がセントラルキッチンや寮の台所で調理するお食事を召し上がられています。朝・昼・晩の3食が提供されており、その数は朝約130食、昼約180食。夏休みなど児童部の子どもたちが多くいる時期は220食にもなります。そのため、調理や基本的な献立作りは委託業者にお預りし、学園側で食事を担当する管理栄養士は、各職員と連携しながら、食事提供の適切な管理を行います。



食べる

楽しみを大切に

食事は栄養バランスを考慮することが大切ですが、「食べる楽しみ」も忘れずに取り入れています。季節の行事に合わせた特別メニューを出したり、各部署からのリクエストを反映した献立を考えたたりすることもあります。例えば、クリスマス期の時期にはチキンレッグを出したり、委託業者に協力いただいて、ビュッフェ形式のメニューを取り入れたりと、さまざまな工夫を行っています。



一人一人に

合わせる

月に一度開かれる「給食会議」では、各部署の職員が集まって、食事について話し合っています。実際に料理を試食しながら、成人部や児童部など、それぞれの視点から「もっとなめらかな食感に」「もう少し味を濃くした方が良い」といった意見を出し合いい、改善を重ねています。

利用者様一人一人の食べる力や健康状態、好みは異なるため、看護師や支援員とも連携しながら細かく状況を把握し、それぞれに合った食事を提供しています。例えば、食べにくいものがある人には、柔らかく調理したり、食べやすい大きさにカットしたり。毎日「おいしい」と笑顔でお食事をしていただけるよう、心を込めて準備

しています。

も参加できるお菓子作りの企画を実施しました。フルーツあんみつを作ったところ、とても美味しそうに食べてくれたようで、「こんなに和菓子が好きだったなんて！」と職員も新しい発見があったほどです。

滝乃川学園の食事サービスには、年齢や障害に関わらず、みんなが「おいしく、楽しく食事ができるように」という想いが込められています。日々のお召し上がりいただくお食事には、たくさんのお愛情と工夫が詰まっています。



園長だけど生き物博士？

佐伯園長は、保育園の園長として働きながら、今も全国各地を飛び回り、蝶や鳥の撮影を続けています。小笠原諸島に生息する2種類の蝶を見るために、5回も足を運んだこともあるそうです。これまでに撮影した蝶は約270種、鳥はなんと約430種にもものぼり、自身で蝶や鳥の写真集も発行しています。写真を撮るうえで大切にしているのは、「生き物たちを、その環境とともに写すこと」。写真集に収められているのは、生き物たちが生きる環境までもが伝わってくるような、奥行きのある一枚です。



命をうばうのではなく記録として残す

事務所内の佐伯園長の机のまわりには、カブトムシや蝶の標本がたくさん並んでいます。飾られているのは、かつて園長が飼育していた虫たちが、寿命を迎えたあとに残したものの。標本にするために採集するのではなく、生き物たちとの記録を大切にしているのだそうです。



さえき園長って
どんなひと？

by
矢川あたりの
鳥たち虫たち



お話を聞いた人: 佐伯 元行さん

佐伯元行さんは、滝乃川学園から歩いて2分ほどの場所にある『国立あおいとり保育園』の園長先生です。“生き物博士”として、『矢川あたりの鳥たち虫たち』のコーナーを担当してくださっています。佐伯園長を一言で表すなら「蝶々屋」！子どもの頃から蝶が大好きで、お母さんと一緒に高尾山の近くへ蝶を採りに行っていたそうです。また、滝乃川学園にも幼い頃からよく通っていて、当時は学園でクワガタをもらうこともあったとか。

あおいとり保育園の園長先生に聞く

矢川あたりの 鳥たち虫たち

滝乃川学園のご近所、「国立あおいとり保育園」の園長・佐伯元行さんは、幼い頃から生き物博士！ そんな佐伯園長に、滝乃川学園界隈でその季節に見られる鳥や虫を教えてください。

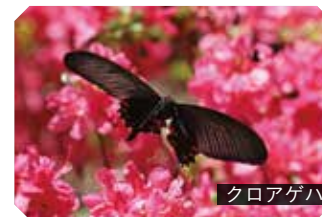
その10
アゲハ



花の蜜を吸う ナミアゲハ



アオスジアゲハ



クロアゲハ



カラスアゲハ

アゲハの仲間は、春から秋まで数種類が滝乃川学園周辺で見られます。早い年では3月頃からナミアゲハが見られ、ついでキアゲハやクロアゲハ、5月の連休頃にはアオスジアゲハやカラスアゲハが見られることもあります。食草はミカン科に限らず、パセリやクスノキなどを幼虫が食べるものもいます。

写真・文：佐伯元行

ご支援のお願い

日頃より私たち滝乃川学園に温かいお心をお寄せいただき、深く感謝申し上げます。私たち滝乃川学園は、障害のある人々がみずからの幸せを希求できる場を創造、提供し、それを支援する有為な人材を育て、学園の発展のみならず、わが国の障害者福祉のさらなる進歩に貢献できるよう、役職員一同、先駆者としての誇りを胸に、努力していく所存です。引き続き、皆様のご指導とあたたかいご支援を宜しくお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行

専用の払込票がございます。必要な方は、お電話またはメールにてお問い合わせください。

三井住友銀行

銀行名：三井住友銀行国立支店
口座番号：普通預金 0921148
口座名義：社会福祉法人滝乃川学園 理事長 石井慈典

三菱UFJ銀行

銀行名：三菱UFJ銀行府中支店
口座番号：普通預金 0002309
口座名義：社会福祉法人滝乃川学園 理事長 石井慈典

130周年記念寄附について

重度の方でもいきいきと活動できる場所を目指し、「新作業棟建設プロジェクト」を企画準備中です。現在、インターネット寄附の導入も検討しております。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

感謝録 寄附者 ご紹介

ホームページにて、2024年11月1日から2025年2月28日までにご寄附をいただきました皆様をご紹介させていただきます。

ボランティア募集！

滝乃川学園では、日中活動支援、余暇活動支援、園内環境整備（除草・落ち葉掃きなど学園内の清掃・整備）などのボランティア活動をしてくださるボランティアの方を募集しています。イベントボランティアは、随時ホームページにて情報を掲載していきます。ぜひお気軽にお問い合わせください。

ボランティア担当

【電話】042-573-3950（9時～17時）

滝乃川学園ガーデンプロジェクト

園内にある500坪ほどの敷地にコミュニティガーデンを作り、内外の人がみんなで協力して、維持管理をしながら、誰もが憩うことのできる場所を目指して活動しています。まずは気軽にガーデンの見学にいらしてください。お待ちしております！

【日時】「滝乃川学園ガーデンプロジェクト」のフェイスブック（公式ページ）で最新の日程をお知らせしていますので、ご確認ください。

【場所】聖三一礼拝堂前コミュニティガーデン

【服装】汚れてもよい服装、靴

ガーデンプロジェクト担当

【電話】042-573-3950（9時～17時）

矢川だより読者の
皆様の声^①を募集しています！

アンケートフォーム
はこちらから



矢川だよりを読んで感じた
皆様の感想をお聞かせください！



インフォメーションボード

2025年
4月

インスタ担当者のおすすめ投稿 BEST 3

滝乃川学園公式Instagramの投稿の中でInstagram担当者のおすすめ投稿BEST3を紹介します！
一昨年から始めた滝乃川学園公式Instagramにはガーデンの様子や、イベントの様子などを載せています！

1位

鴨カモンかも



2位

アスパラガスだ！



3位

スタッフに聞いてみた



Follow
me!!



おすすめの投稿をぜひ、見てみてください！

他にも、滝乃川学園の日々の様子をゆる〜く発信しています。
お気軽にのぞいてみてください！

矢川だより

No.136

矢川だより 第136号

2025年4月発行

発行 社会福祉法人 滝乃川学園

制作 矢川だより編集会議

合同会社三画舎



〒186-0015

東京都国立市矢川三丁目16番地の1

電話 042-573-3950 (代表)

メール soumu@takinogawagakuen.jp

HP <https://www.takinogawagakuen.jp/>



公式ホームページ



矢川だよりの感想を
お聞かせください！